

ふるさと再発見 第91回

Re:discovery Omihachiman

安土城築城450年④

安土城の石垣



今回は織田信長が築城した安土城の石垣について紹介します。

石垣は城の構造で重要な位置を占めますが、それ以前は土塁という土壁が城の防御を支えていました。安土城以前の室町時代では東近江市百濟寺などの山寺で高い石垣が使われていました。

安土城の石垣でも、自然石を積み上げる野面積みに加えて、

表面を加工する打ち込みハギを用い、石垣の隅角には横長の石を交互に積み上げる算木積みが使われました。算木積みは、天主や御殿のある主郭部と旧摠見寺周辺に集まっています、特に隅

角が直角より大きい鈍角となっているものは主郭部外周りに多く見られます。また、安土城の石垣の9割は野面積みですが、近江の穴太にいた石工集団の技法であったことから穴太積みという言葉でも知られています。安土城はこうした石垣の技術革新を経て、城全体で石垣を持つ時代の分岐点となりました。

石垣は安土城跡主郭部、そこに続く大手道、百々橋口、七曲口、搦手口、そこまでに続く通路周辺で見られ、これらの石垣の量には圧倒されます。高く積まれた高石垣は天主台など主要曲輪で見られ、最も高い部分で14メートルの高さを測ります。一方で大手道やふもとでは低い石垣が多く、大手道付近の曲輪の周囲には低い石垣が2段で構成されたものもあります。

石材のほとんどは湖東流紋岩で、『信長公記』には「安土山の大きな石を使って、石垣を築き始めた」とあるように安土山で採れる石材を使っています。それ以外にも「観音寺山、長命寺山、長光寺山、伊庭山などで大きな石を引き下ろして、これを千人か二千人、あるいは三千



大手道付近の曲輪に2段で構えられた石垣（県提供）

人がかりで安土山に引き上げた」という記録が残っています。こういった巨石は、伝黒金門跡の正面・側面で見ることが出来ます。また所々で五輪塔、供養塔、宝篋印塔を加工したものが石垣の石材として使用されているのを見ることが出来ます。『信長公記』によると人足一万人を昼夜三日間動員して、現在も見つかっていない幻の石である「蛇石」という巨石を山へ引き上げたことが記述されています。安土城は「幻の城」ですが、石垣だけを見ても、当時の織田信長の勢いを感じることが出来ます。

文（文化振興課・森山）



算木積みで作られた石垣

広報おうみはちまん

令和8年7月号

編集・発行／近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236

TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp

WEB <https://www.city.omihachiman.lg.jp>

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE



人口と世帯

令和8年6月1日現在
()は前月比

総数	81,718人	(+ 51)
男	40,154人	(+ 14)
女	41,564人	(+ 37)
世帯	36,662世帯	(+ 56)

※外国人住民(43か国・地域／2,426人)を含みます。